

主の祈り (93-5A)

天にまします われらの父よ
ねがわくは、み名をあがめさせたまえ
み国をきたらせたまえ
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ
われらの日用の糧（かて）を、今日もあたえたまえ
われらに罪をおかすものを、われらがゆるすごとく
われらの罪をもゆるしたまえ
われらをこころみにあわせず、悪よりすくいだしたまえ
国と ちからと さかえとは、かぎりなく、
なんじのものなればなり

アーメン

石巻栄光教会宣教基本方針

石巻栄光教会は、主なる神と出会うイエス・キリストの体です。神様が愛している一人一人のかけがえのなさを思い出し、この世界を神様が大切にしていることを思い出す場所です。石巻栄光教会は、希望を生み出します。

私たちは、この社会の現実の中で生きています。教会の中だけでの満足にとどまらず、社会に生きる人々の痛みや苦しみ、あるいは楽しみを共にしていくこと、そして、悩みや不安を分け合って喜びに変えていく教会になることを願います。

また、一人一人の生き方を尊重するとともに、神様から一人一人に与えられている賜物を活かして、神さまと人を愛し、感謝しながら地域に仕えていく教会を目指します。



日本キリスト教団 石巻栄光教会

〒986-0854 石巻市大街道北2丁目12-3
電話/FAX: 0225-22-4090
ホームページ: <http://tohoku.uccj.jp/i-eikou>
メール: i-eikou@tohoku.uccj.jp
振替口座: 02280-8-2810
教会創立: 1887年9月25日

集会案内

聖日礼拝	毎週日曜日	午前10:30
早朝礼拝	毎週日曜日	午前7:30
交わりの会	毎週日曜日	礼拝後
み言葉と祈りの会	毎週水曜日	午後7:30

2024年度標語 『これは、人の意志や努力ではなく、
神の憐れみによるものです』

- ◎ 聖日礼拝を共に守りましょう。
- ◎ 日ごと聖書に聞き、祈りましょう。
- ◎ 家族・地域に福音を届けましょう。
- ◎ 平和を創り出すために働きましょう。

No.2442

2024年10月13日

主日礼拝式順序

午前10時30分



受付
司会
献金
奏楽

礼拝当番は
礼拝堂に集まった人の中で
可能な方に担当いただきます。

前奏
招きの言葉
讃美歌

[34] ヤコブの手紙第4章8節
34

司会者
一同

子どもたちへのお話

祈り
聖書
讃美歌
お話し
讃美歌
献金
報告
讃美歌
祝福の祈り
後奏

ミカ書6編8節
(旧約聖書 1, 453ページ)
5 5 9 (1-2節)
「神様が求めること」
川上直哉 牧師
5 5 9 (3-4節)
92(2節)

司会者
一同
一同
司会者
一同

*当教会では 着席のまま礼拝を守っています。
*旧約聖書は前半(P.1502まで)、新約聖書はその後ろです。
*献金の額はいくらでも結構です。持ち合わせがないときは次の機会に。

お知らせ
10月16～24日に川上牧師は「コロ支倉」団長としてスペイン・イタリアへ参ります。
10月27日(日)の午後、教会役員会をいたします。

今週の集会

☆「聖餐式」 10月13日(日)11:45～ 礼拝堂にて
☆「みことばと祈りの時」 10月16日(水)19:30～ オンラインのみ

次週の予告(10/20)

☆ 主日礼拝(お話：中澤竜生 宣教師)

[聖書]	創世記2章18節／ヨハネ伝15章4-5節
[お話]	「人がひとりでいるのは良くない」／「私はぶどうの木、あなた方は枝です」
[讃美歌]	24 226 88 [招きの言葉] 1
受付	礼拝当番は礼拝堂に集まった人の中で可能な方に担当いただきます。
奏楽	

お知らせ

◆今後の教会の予定は以下の通りです

- ・10月20日(日) 10時半からの礼拝を中澤竜生宣教師が担当
- ・10月27日(日) 地区講壇交換(石巻栄光には小林先生がお越しになります)
- ・11月3日(日) 10時半から永眠者記念礼拝、その後、墓前礼拝
- ・11月10日(日) 10時半からの礼拝を齋藤篤牧師が担当
- ・11月24日(日) 10時半からの礼拝を齋藤朗子牧師が担当
- ・12月3日(日) 柴宿教会礼拝奉仕(14時半～)

《先週の集会統計》

聖日礼拝	7人	み言葉と祈りの会	-
早朝礼拝	3人	聖餐式	6人
月定献金		特別献金	
小杉澄子(10月)		小杉澄子(聖餐式感謝・会堂修繕)	
		柴宿教会(感謝)	
席上献金	¥16,600		

週報別冊

2024年10月13日号

1. 教会宛に、以下の通信が届いています。

【その他教会・団体関係】

- 「ニュース」(カトリック部落差別人権委員会) : 「福音の豊かさを求めて」(幼きイエス会 松本公子さん) 等が掲載されています。
- 「『障がい者週間』のつどい」(NCC「障害者」と教会問題委員会) : 11月9日(土) 13時半から、オンラインと東京で、「障がい児も共に普通学級で——その教育実践を学ぶ」(元小学校教員 片桐健司さん) が行われる旨の連絡を頂きました。

2. 牧師動静

10月7～9日(月～水)

大阪から在日大韓基督教会の方々をお迎えして、クリシタンツアーを催行し、原発事故被災地と津波被災地のご案内をしました。

10月10日(木)

午前中「すすきだ音楽隊」の接遇をし、午後、シャロームいしのまきに沖縄の首里教会に送付頂く「東北ヘルプ」ニュースレターを届けました。

10月11日(金)

午前中、宮城刑務所で教誨活動をし、午後、ワイズメンズクラブの役員会に出席しました。

10月12日(土)

午前中、「侍」読書会をエマオで主宰し、午後、「世界食料デー仙台大会」をエマオで主宰しました。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく教会のメール宛、ご連絡ください。右記日程を調整して、ぜひお目にかかりたく存じます。

- 10月8日(火) 朝、在日大韓基督教会の有志の方々が石巻栄光教会を訪問くださいます。一緒に聖餐式の恵みに与ることができました。感謝な時でした。
- 10月10日(木) 午前に行われた「すすきだ音楽隊」は、本当に祝された時間となりました。教会が地域への奉仕に用いられたこと、お祈りを賜りました皆様に、心から感謝します。
- 明日より10月24日(木)まで、牧師が出張のため、水曜日祈禱会と早朝礼拝は「録画配信」となります。

10月14日(月)

大曲ルーテル同胞教会の片桐進牧師をお訪ねし、秋田の殉教地の巡検をしています。

10月15日(火)

秋田市で教誨師研修大会に出席して発表を担当し、大会終了後、羽田へ行きます。

10月16日(水)

朝9時45分羽田発・ミュンヘン経由でマドリッドへ行きます。

10月17日(木)

マドリッドからセビリア、そしてコリア・デル・リオで「ハポン」さんたちとの交流会に出席します。

10月18日(金)

コリア市文化センターにて式典に出席し、コンサートに出演します

10月19日(土)

セビリアへ行き「ハポン」さんたちとの交流会に出席します。

10月20日(日)

空路でマドリードを経由しローマのチビタヴェッキアに行きます。

日本カトリック部落差別人権委員会事務局 〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
編集人 前川 徹 TEL (03) 5632-4482 FAX (03) 5632-7920 Eメール: buraku@cbcj.catholic.jp

福音の豊かさを求めて

松本 公子

1980年のはじめ、川崎に住みはじめて数年経ったとき、電柱に貼ってあった小さな広告が目に入った。そこには「自主夜間中学^(注)をいっしょにやりませんか」と書かれていた。さっそく連絡をとりボランティアの仲間入りをした。体よく義務教育を「免除」された多くの未就学者の学びたいという思いを受け止めて、公立の教師や学生など7名ほどのボランティア先生が活動していた。在日韓国朝鮮人、何らかの障害を抱えている人などが熱心に学んでいた。授業の後、車いすの通学者を40分かけて自宅まで送り、帰宅すると夜11時を過ぎることがたびたびだった。

最近、「差別」について見聞きするたびに、あの時の経験がとても助けになっていると痛感する。たとえば、私がカトリックのシスターだと知った脳性まひのMさんからの一言:「キリスト教では『すべての人はみんな兄弟』だって言うでしょ? でも僕たちのような人間は、その『みんな』の網目からこぼれ落ちてるんじゃないかな?」彼とそれについて話すチャンスはなかったが、今でもあの一言は私に問い続けている。教会で「私たち」と言う時、それは誰を指すのか、無意識に誰かを排除していないかと。「自分にとって『私たち』は具体的に誰なのか」と自問することが多くなった。また修道会が主催する講演会にオンラインで参加しないか、とNさんを誘った時のこと。彼女から「その講演には字幕が出ますか、出ないと聴覚障害の私には理解できません」と返事が来た。講演会や集会で、字幕が付けられているか、手話通訳があるか、ほとんど気にしていなかった自分の現実を知らされた。また、印刷物に「ルビ」がふられていることが、文字を学んでいる者にとってどれほど大切なことなのか。

川崎の浅田教会で司牧していたフラド会のフランス人、故アントレ・レノレ神父が説教でいつも口にしていた言葉「教会は信者だけのものではありません。みんなのものです」はどれほど多くの人々を力づけたか。他の2人の同僚司祭と共に、地域の住民、労働者、問題を抱えている人の友であり続けた生き方は、接する人々に「希望、喜び、生きる力」の源であるイエス・キリストを運んでいた。Mさんが言っていた「みんな」の網目から誰ひとりこぼれ落ちることがないように、という決意がうかがえる。「すべての人はみんな兄弟—教会はみんなのもの」キリストを信じる私たちは常にこの「わたしたち=みんな」の感覚を育てていくように招かれていると思う。